

---

# イメージ

紙=

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

イメージ

### 【Nコード】

N3155Z

### 【作者名】

紙<sup>II</sup>

### 【あらすじ】

『自分の金は自分で稼げ！』我が高校。終続高校。ここでは、同じ意思をもつ者同士がクランを組み、クライアントのミッションをこなして金を稼ぐ。そんな学校だ。

1人1人が武器を持ち、武器には能力が宿っている・・・

## 第1章【1】妹病

「ああ眠い・・・」

さすががしいとは言えない朝を迎えたが。登校時間にはまだまだ余裕があるからいいとしよう。俺は矢上才子。しがない貧乏高校生だ。住んでいるところは寮。という表面で、家賃、光熱費、etc...。全て自分で払わなくてはいけない。学校として、仕送りは禁止。自分で稼げとよ。

「おにいちゃん。おはよう」

とんでもなくかわいいスマイルを送ってきたのは、矢上舞子。俺の妹である。

「おはよう、舞子。今日も朝からかわいいな」

「うん、おにいちゃん。朝ごはんできてるよ？」

という妄想をしている俺。妹なんていない。一人っ子だ。しかし、朝からこんな妄想ができるとは・・・恐るべし、俺の妄想力。なんて自画自賛しながら、俺はカップラーメンのふたを開け、3分待った。その間、どんな妄想をしていたかは気にしないでくれ。ふたを全て開くと立ち込める湯気の中で、アダルトな妄想をしていたが、一応自粛しよう。しかしあれだ。わずか、400文字で妄想という言葉で4回も発している。400分の8（2文字だから）つまり、50文字に妄想の『妄』か『想』という言葉が発したことになる。すげえ後が心配になってきた。戦闘ものだよな・・・？一応。こんなことを考えながら、制服を身にまとい、愛刀を手に取った。愛刀つてのは、俺の日本刀のことだ。

話は戻るが、俺はしがない貧乏高校生。寮に家賃があるってことは、寮の豪華さもピンからキリまである。で、俺の寮は予想どころ最低ランク。学校まで徒歩50分。バスに乗る金ももったいないから、健康のためという建前で歩いている。そうでもしないと心がも

たない。

一応、この学校で金を稼ぐ方法を説明しておこう。重要な単語は、クランとクライアントだ。ここ、テストにでるぞー。クランは、最近お偉いさんがたが、ネトゲにはまってるから、この名前になったらしい。クライアントは、依頼者。クライアントが依頼した仕事を、クランが引き受け、達成すれば報酬金がもらえると、いうシステムだ。学校には、小教室がいくつもあり、1教室1クランときまっている。説明はこのぐらいにして、学校へどうやって行くか。という事が重要視される。

- 1、舞子（妄想）とともに登校する。
  - 2、同じクランであり、隣人でもある高也（変態）と登校する。
- ・・・答えは絶対に1だ！よし決定。

ミシミシとなるドアを開くと、なぜか・・・高也がニッコリ笑顔で俺を出迎えてくれた。案の定会ってしまった。さっきの問の答えは、2でした。

「おはよー。矢子い」

俺の妹（妄想）との楽しい時間はあつけないものであった。

いつもなら50分で着くこの校舎も高也といるとなぜか1時間半かかってしまう。これは・・・怪奇現象！？んまあそんで、学校の中はドア。ドア！ドアツ！このドアはクランの数だけあるからなあ。本来クラスが書いてある所には、クラン名が書かれている。クラン部屋は、自由にバージョンUPさせてもよい。・・・自腹でな。学校1のクランには何と、受付まであるんだぞ？ちなみに、俺らのクラン名は『イメーシ』名付けた理由は・・・なんかかっこいいから！そして、その『イメーシ』と書かれた、教室へと入る。

「おーっす」

「どうもーっ」

ちなみに俺らは4人クラン。で、この2人が残りのメンバー。先に応答したのが、宮倉輝。武器は鎖だ。そんでもって、次が紅一点の

桜庭咲。武器は太刀。ああ、それと高也の武器は小太刀だ。

俺たちの武器には、能力が宿っている。

## 第1章【2】血管と欠陥品

「お茶が入りましたよー」

咲ちゃんののかな声とともに、お茶が運ばれてくる。そんなのどかな時間を潰すかのように、その時は突然訪れた。一通の電話が入る。

「はいはい。こちらあ克蘭『イメージ』ですがあ」

『私だ。西野だ』

西野才子。俺と同じ字だから、凄くやりにくい．．．提出物に才子さいしって書くと怒られるし。んで、ちなみに西野先生は克蘭フロント。まあつまりはクライアントから依頼された仕事を克蘭に振り分ける仕事だ。

「西野先生え。テレビ電話なんですからあ。名乗らなくても大丈夫ですぜいよー」

『うるさいっ！お前らのようなクズ克蘭でも、一応教師として礼儀ぐらいは無いとだな．．．』

先生が赤くなってる。こんなの初めて見たぜ。

「ふいふいー。んでえ？その礼儀正しい克蘭フロント様がなんのごようじでえ？」

『ああ。いきなり本題だが、かなり重要な依頼がはいった。それで、色々条件を提示されたのだがな、条件に合うのがお前達だけだったんだ』

「そんなこと言っても、他にも沢山のお克蘭がいるじゃ無いですかあー」

『私も本当だったらそうしたいところだったが．．．昨日エリアB地区で強襲が起こってな．．．おかげでお前達しか条件に合う者がいなかったんだよ！．．．クソ』

『まあしょうがない。出発は明日。このあと武闘室に來い。脳の血管が切れるまで指導してやる』

それだけ言つと通話が切れる。

「はああ。血管が切れるまでかあ．．．」

高也がぼやきをとばす。しかし明日出発で、血管が切れる特訓つて．．．一体．．．

武闘室に着くと、刀を握つた矢子さいこ先生がいた。ちなみに、先ほどからやれ太刀だの鎖だの、日本風の物が多いが、ここはあくまでも日本校舎。一つ隣の校舎に行けば、英語地獄が待っている。補足として反対の方は韓国語だ。だから、日本校舎では太刀だの鎖だのが多い。

「どうもです」

先生に話しかける．．．と、

「はあああああああつ！」

いきなり斬りかかってきた。反射的に出した愛刀『重戦』フエンスで防ぐ。

「おやおや。欠陥品の割にはナイスガードだな。次は視覚術を出していくぞ」

そう言つて間合を取ると、ゆっくりと動きながら切り込んでくる。

「一本、二本．．．クソツタレが．．．」

(視覚術とは、刀身と自分の身体を出来るだけ離すことによつて、刀身or身体を二つに見せる技。身近な事に例えると、自分の顔の少し前に指を立てて、その状態で奥側の壁を凝視すると、指が2本あるように見える。これと同じ原理だ)

視覚術で起こるブレはわずかとは言つても、ミリ単位の戦いとなるため、とんでもなく不利になる。だったらお前も視覚術使えよつて話だが、俺の愛刀の刀身は1.5mそれに対して先生の刀身は約2m。その差僅か50cmが、視覚術の良し悪しを左右する。

「特訓はわたしを倒すことだ。言つておくが一人で．．．な。こんな克蘭フロントごときに勝てないようじゃ今回の依頼のクリアなんて到底無理だな」

そついいながらも、刀を振り下ろす。

(間合はこのぐらいか・・・?)  
完全に外れたと思った次の瞬間であった。

『ズシヤアアアアアアア』

俺の身体から大量の血が噴き出した。

「避けたと思って油断したか？それとも、生徒を斬らないでも思  
つたのか？甘ちゃんだな」

動かなくなった左腕を眺めながら、愛刀を握った右腕を上下に降る。  
万全の状態でも勝てるかも分からない相手に対して、片手無しのハ  
ンデを抱えながら戦うというのだ。もう絶望的だ。

「おやおや？矢上よ。もう終わりか？所詮欠陥品は製品にはならな  
いか？」

止めを刺すわけでもなく、ただ罵倒する。それだけだ。そんな中で  
俺から出た言葉は単純。

「やっぱり先生は優しいな」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3155z/>

---

イメージ

2011年12月14日14時48分発行